



禁酒国の由緒ある 国産ビール

丸紅 カラチ支店 イスラマバード出張所 山田 忠久



イスラマバードのメインストリート。高層ビルはこの通り沿いにしかない

パキスタンの首都イスラマバード。最近、新聞や報道でこの名前を耳にする方は多いのではないだろうか？緯度は福岡とほぼ同じですが、大陸内部にあるため気候は過酷です。夏は時に五〇度を超え、雨期はモンスーンで高温多湿、冬は氷点下を下回るといって寒暖が激しい気候。特に夏の暑さは酷く、クーラーをつけても寝苦しい夜が続く事が多々あります。イスラマバードは計画的に建設された首都である事から、道路は碁盤目状に整備され、官公庁や外国人が住む高級住宅が立ち並び、山や豊かな緑に囲まれ、パキスタンの他の都市とはかなり異なります。ただ街自体が非常に小さく、車で少し走ると、ロバ、牛、ヤギがそこら辺を歩き回り、マーケットはシャワール・カミーズ（通称シャルカ

ミという民族衣装）を来た男性達で活気にあふれ、ここがパキスタンである事を実感します。パキスタンは言わずと知れたイスラム教の国。もちろんお酒や豚はご法度ですが、外国人や非ムスリムのパキスタン人は「Liquor Permit」を取得の上、お酒を買う事が出来ます（もちろん市内にバーや酒屋はなく、仕事帰りに洒落たレストランやバーで一杯という事はできません）。また禁酒国でありながら、マリールビールという国産ビールがあります（その他、マリールウイスキーやマリールウオッカまであります。尚、マリールとはイスラマバードの北東にある避暑地の地名です）。もともとは一九世紀に英国人が英国軍の為に製造開始したそうで、



マーケットでフルーツを食べる現地の人々

当時アジアで最初の近代醸造所だったようです。日本では世界中のビールを取り揃えたレストランやバーもあります。さすがにこのマリールビールは置いていないのではないのでしょうか。このマリールビール、パキスタン料理には非常にマッチし、パキスタン料理を食べながら飲むマリールビールは格別です。

最後にイスラマバードでの生活ですが、文化の違い、治安の関係で行動が制限されたり、日本食材の現地調達が難しかったりと、確かに色々と生活が大変な面はあります。一方、イスラマバード近郊にはいくつかゴルフ場もあり、週末はゴルフ、その他ソフトボールやテニスといったスポーツで他の駐在員と汗を流し日頃のストレス解消をしています。また、ここに住む外国人は家で親しい友達を呼んでホームパーティーなどとして楽しんでいきます。



マリールビールはオリジナル（左：約170円/缶）とクラシック（右：約200円/缶）の2種類